

第 21 期業績のご報告

(平成 28 年 7 月 1 日～平成 29 年 6 月 30 日)

平成 29 年 9 月 吉日
日本システムバンク株式会社
代表取締役社長 野坂 信嘉

当事業年度のわが国経済は、当初、弱さが見られた時期がありましたが、穏やかな回復基調が続いています。企業部門においては、設備投資は横ばいで推移していますが、研究開発投資や生産に持ち直しの動きが見られました。家計部門においては、雇用需給のタイト化を受けて賃金が持ち直すなど、明るい動きが継続しているものの、消費マインドの改善の遅れや、根強い節約志向を背景に個人消費は今のところ横ばいで推移しています。

このような状況の中、駐車場業界におきましては、慢性的な駐車場不足により都市部を中心として高い駐車場需要はあるものの、地価の高騰によりマンション・宿泊施設などの駐車場以外の用途への転用が進むなど、厳しい環境となりました。

このような環境のもと、当社は積極的な新規駐車場の開設及び新規得意先の開拓に努めて参りました。また、駐車場の付加価値向上を図るべく、スマートフォンでの駐車場利用料金決済サービス、法人一括請求サービスの提供を開始致しました。更に、将来を見据え基幹業務システムへの投資及びコールセンターシステムの刷新を行いました。

以上の結果、売上高は、6,325,676 千円（前期比 103.9%）、営業利益は 227,873 千円（前期比 77.1%）、経常利益は 170,328 千円（前期比 73.0%）、当期純利益は 87,944 千円（前期比 100.5%）となりました。

事業区分別の業績は以下の通りです。

【コインパーキング(以下CP)システム運営事業】

CPシステム運営事業では、新規駐車場におきましては、積極的な営業活動を行い、開設を進めました。既存駐車場におきましては、売上は順調に推移致しましたが、首都圏における大型駐車場の解約の影響を受けることとなりました。その結果、売上高2,962,171千円(前期比104.1%)に留まりました。

【CPシステム販売管理事業】

CPシステム販売事業におきましては、CP運営会社様の開発計画が増加傾向で継続したこと及び駐車場のニーズの高まりを背景に業績は伸長致しました。また、CPシステム管理事業におきましても、開発計画増加の影響により堅調に推移致しました。その結果、売上高3,114,046千円(前期比104.0%)となりました。

【プロパティマネジメント事業】

プロパティマネジメント事業におきましては、「満室経営」を目指し物件の稼働率向上に注力致しました。その結果、売上高248,108千円(前期比99.8%)となりました。

事業別の売上高は次の通りであります。

事業区別	売上高	前期売上高	前期比
CPシステム運営事業	2,962,171千円	2,845,511千円	104.1%
CPシステム販売管理事業	3,114,046千円	2,993,821千円	104.0%
プロパティマネジメント事業	248,108千円	248,388千円	99.8%
その他	1,350千円	744千円	181.4%
合計	6,325,676千円	6,088,466千円	103.9%